



# 地域水道ニュース

多摩地域版

## 関東大震災100年防災特集号

東京都水道局多摩水道改革推進本部調整部  
東京都立川市緑町6番地の7 電話042-548-5362 FAX 042-521-5141  
発行日 令和5年9月（令和5年度 第四類 第210号）

2023.09



東京都水道局



～備えよう、明日の防災～

御存知ですか？ 災害時給水ステーション



災害により断水したときは、左のマークが目印の、  
**災害時給水ステーション**で水をお配りします。

ひとり3リットルを目安にお配りしますので、ポリタンク  
やペットボトル等、水を入れる容器を御持参ください。

お住まいや職場の近くの災害時給水ステーションを把握しておきましょう。  
災害時給水ステーションには以下の2種類があります。

### 給水拠点（水道施設等）



概ね半径2kmに1か所、水道局が開設します。  
場所や開設状況は**水道局HP**のほか、  
**『東京都水道局アプリ』**でも御確認  
いただくことができます。  
(ページ下の記事も御覧ください)



(水道局HP)

### 避難所等（学校等）



水道施設等での応急給水を補完するため、  
避難所周辺の給水栓等を用い、市町が開設します。  
場所や開設状況は市町のHP等で御確認ください。

### アプリで手軽に、お近くの災害時給水ステーションを確認

■ 「東京都水道局アプリ」では、各種お手続きや、料金のお支払い等ができるほか、スマートフォンの位置情報を活用し、**お近くの災害時給水ステーション（給水拠点）の場所を確認できます。**

■ 災害時には「どの災害時給水ステーションが開設していて、飲み水を配っているのか」を確認することも可能です。

■ 災害時にも役立つ「東京都水道局アプリ」をぜひ御利用ください。



■ アプリの詳しい内容や、ダウンロードは  
こちらから



# 立川警察署とパートナーシップフェスタを開催します



災害時、断水したらどうしよう？ 実際に水をもらってみよう！

9/30(土)、昭和記念公園で実施される立川パートナーシップフェスタで公開合同訓練を行います。実際に給水車を使用し、警察等の関係機関と災害時を想定した迫力ある応急給水訓練を行うほか、一般の方向けの応急給水体験や、6リットルの水が入る便利な給水バッグの配布を行います。

「災害時、断水したらどうやって水をもらうのか？」 是非一度ご体験ください！

## ★ イベント詳細

【名称】立川パートナーシップフェスタ（主催：立川警察署）

【場所】国営昭和記念公園 ゆめひろば（東京都立川市緑町3173）  
(JR立川駅北口から徒歩10分)

【日時】令和5年9月30日（土）10:00～14:00

※詳細は後日立川警察署ウェブサイト等で公表いたします。



## 消防からのお知らせです。ぜひ御確認ください！

# 地震に対する10の備え

## 身の安全の備え

### 家具類の転倒・落下・移動防止対策をしておこう

- けがをしたり、避難に支障がないように家具を配置しておく。
- 家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒・落下・移動防止措置をしておく。



### けがの防止対策をしておこう

- 食器棚や窓ガラスなどには、ガラスの飛散防止措置をしておく。
- 停電に備えて懐中電灯をすぐに使える場所に置いておく。
- 散乱物でケガをしないようにスリッパやスニーカーなどを身近に準備しておく。



### 家屋や塀の強度を確認しておこう

- 家屋の耐震診断を受け、必要な補強をしておく。
- ブロックやコンクリートなどの塀は、倒れないように補強しておく。



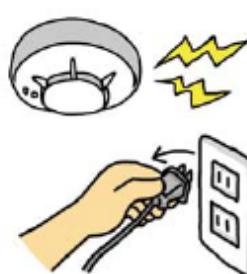
## 消火の備えをしておこう

- 火災の発生に備えて消火器の準備や風呂の水のくみ置き（溺れ防止のため子どもだけで浴室に入れないようにする）をしておく。



## 火災発生の早期発見と防止対策をしておこう

- 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を設置しておく。
- 普段使用しない電気器具は差込みプラグをコンセントから抜いておく。
- 電気に起因する火災の発生を抑制するため、感震ブレーカー（分電盤型）などの防災機器を設置しておく。



## 非常用品を備えておこう

- 非常用品は、置く場所を決めて準備しておく。
- 風の寒さなど、季節を考慮した用品を備えておく。
- 車載ジャッキやカーラジオなど、身の周りにあるものの活用を考えておく。
- スマートフォンの予備バッテリー（PSEマーク付き）など、必要な電源を確保しておく。



## 家族で話し合っておこう

- 地震が発生した時の出火防止や初期消火など、家族の役割分担を決めておく。
- 外出中に家族が帰宅困難になったり、離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所などを決めておく。
- 家族で避難場所や避難経路を確認しておく。
- 台風等の風水害が同時期に発生した場合を想定しておく。
- 普段のつき合いを大切にするなど、隣り近所との協力体制を話し合っておく。



## 地域の危険性を把握しておこう

- 自治体の防災マップ等で、自分の住む地域の地域危険度を確認しておく。
- 自宅や学校、職場周辺を実際に歩き、災害時の危険箇所や役立つ施設を把握し、自分用の防災マップを作成しておく。



## 防災知識を身につけておこう

- 新聞、テレビ、ラジオやインターネットなどから、防災に関する情報を収集し、知識を身につけておく。
- 消防署などが実施する講演会や座談会に参加し、過去の地震の教訓を学んでおく。
- 大きな地震の後に同程度の地震が発生する可能性があることを理解しておく。



## 防災行動力を高めておこう

- 日頃から防災訓練に参加して、身体防護、出火防止、初期消火、救出、応急救護、通報連絡、避難要領などを身に付けておく。



## 関東大震災の発生から100年となります

震災が発生する前に日頃から「備え」を心がけてください

大切な人を守るためにできることから行ってください